

今、中学校の部活動は！

中学校の休日の部活動が、学校の先生による指導から地域在住者による指導へ移行されます。

◇美里町では、令和8年度からの地域移行開始に向け準備を進めています。

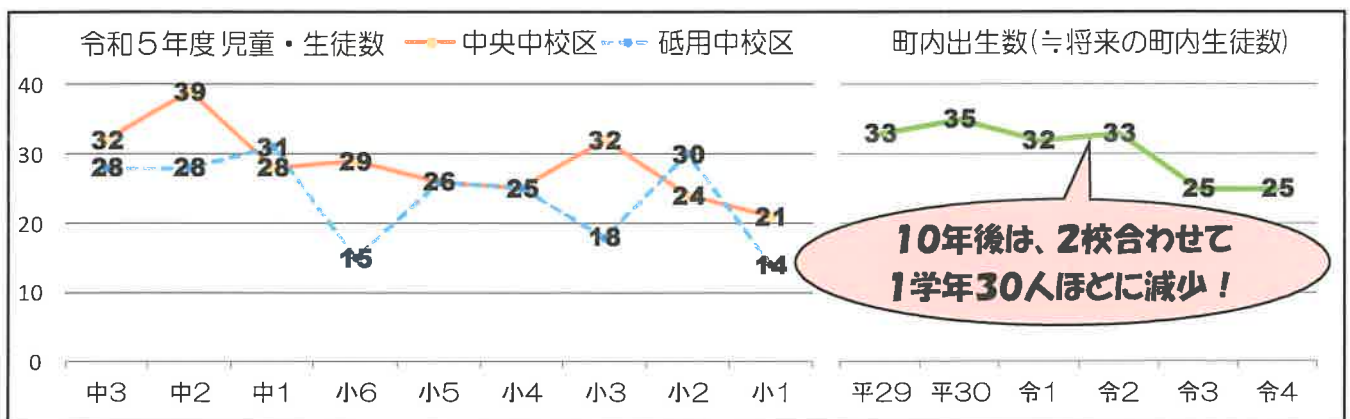
【イメージ図】

	月	火	水	木	金	土	日
これまでの 中学校部活動	中学校の先生が指導					中学校の先生が指導	
	↓ そのまま					↓ 地域へ	
令和8年度から	中学校の先生が指導					地域指導者が指導	

- ・地域指導者は研修を受け、個々の生徒のニーズに配慮した指導を心がけます。
- ・休日の指導を希望する教師は、兼職兼業の許可を得て指導することが可能です。
- ・地域指導者には一定の報酬が支払われます。

◇なぜ、地域移行なのか？ 大きな要因は次の2つ！

① 少子化の影響 このままでは、学校単独でのチーム編成が極めてきびしい状況に！



【参考】町内の中学校で開設されている部活動は下の図の通りです。この内3つが**合同部活動**です。



※本年度から本町では「**拠点校方式**」という制度により、自校に部がない場合、もう一方の学校の部活動への入部が可能になりました。現在、砥用中の生徒が中央中ソフトテニス部に所属しています。



② 教員の働き方改革を進めるために

現在、“学校の先生の長時間勤務”が大きな社会問題になっています。

その大きな要因の一つが、“**休日の部活動**”なのです。

☆競技経験や指導経験もないのに、部活の顧問を務めなければならない。
☆休日にもかかわらず、ほぼボランティアで長時間拘束される。 など

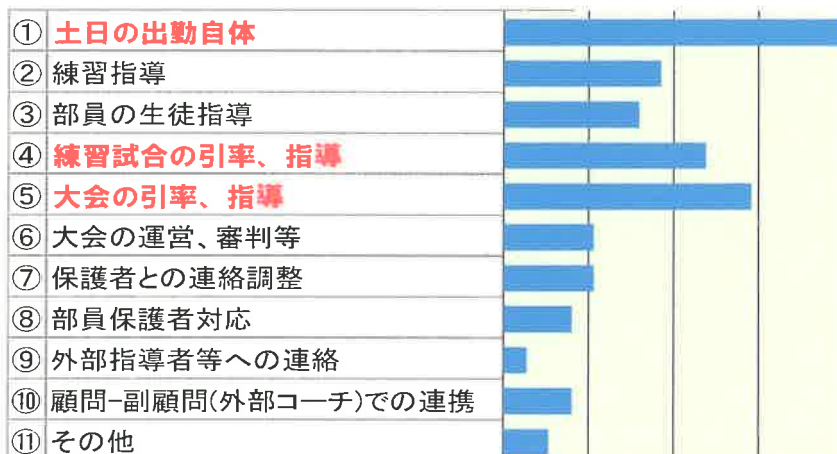


【参考】アンケート結果より(低用中・中央中教職員対象)《令和5年6月実施》

土日・祝日の部活動従事業務で負担大と思うことは。【複数回答可】

0% 20% 40% 60% 80%

【考察】



8割の先生が、休日の出勤自体を負担であると回答しています。特に、長時間拘束される、練習試合や大会引率の負担感が大きくなっています。

別の設問では、6割以上の先生が「報酬が支払われても部活動の指導はしたくない」と回答しています。

☆部活動の地域移行が進めば、①と②、2つの課題解決につながっていきます。

◇一方、部活動の地域移行には様々な「課題」も当然存在します。

昨年、保護者に行ったアンケートで多く寄せられた不安要素は、次の3点でした。

- ◆送迎の負担が増えるのではないか
- ◆適切な地域指導者は確保できるのか
- ◆指導者報酬等に伴う経費負担が増えるのではないか



これらの課題については、本年度立ち上げた「検討委員会」と「部活動指導者会」において協議し、よりよい方策を導き出していまいます。

美里町立中学校部活動地域移行 検討委員会

- ・スポーツ関係団体代表 ・スポーツ協会代表 ・文化協会代表 ・スポーツ推進員代表
- ・総合型地域スポーツクラブ代表 ・中学校長 ・中学校PTA代表 ・教育委員会 ・コーディネーター

連携 情報共有

部活動指導者会

- ・中学校長 ・中学校体育主任 ・部活動顧問
- ・外部(地域)指導者 ・教育委員会 ・コーディネーター

休日の地域部活動
令和8年度からのスタートに向けて

96人と74人。これは、中央・低用両中学校の本年度生徒数です。この事実を聞かされたとき、昭和以前の世代の方すべてが驚きの表情とともに同じ言葉を発せられます。「減ったなあ。」

このような状況の中で、美里の子どもたちの持続可能なスポーツ環境を構築しなければなりません。学校の働き方改革もふくめ容易なことではありませんが、“地域の子どもは地域で育てる”の理念の上に立ち課題解決を図ります。町民の皆様のご理解、ご協力を切にお願いいたします。